



2024 年度

5月 園だより

社会福祉法人雲柱社
五日市保育園

園庭のプラタナスの木にも緑が芽生え、やわらかな淡い新緑に染まった山々がとてもきれいです。俳句の季語では、春の山の草木が一齐に若芽を吹いて明るい様子を「山笑う」と表すそうです。確かに五日市の山々も楽しそうな表情に見えますね。

4月に入園したお友だちも、進級したお友だちも、少しずつ新しい環境に慣れ、笑顔で楽しそうに遊び、ご飯も食べられるようになってきました。子どもたち一人ひとりにとって保育園が安心できる場所になってきたことを嬉しく思います。

「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」(マタイ7・12)

五日市保育園は、たてわり(異年齢混合)保育を行っています。優しく関わってくれる大きい子に憧れの気持ちを抱き、自分がしてもらったように、自分も小さい子に優しくしてあげたいと思い関わる姿は、聖書の中の言葉そのものです。泣いている新入園児のお友だちに「大丈夫だよ、ぼくがいるからね。」と優しく声をかけてくれる子がいました。お散歩でも小さい子と手を繋いで優しく歩いてくれたり、不安そうなときには側にいてくれたり…。こんな風に相手の思いを感じとり、寄り添ってあげている子どもたちの優しい姿に心が温かくなります。

一方で、自分の思いがうまく言葉で伝えられなかったり、まだルールがわからない小さい子に「だめだよ!」と強く言って泣かせてしまった…などの場面もあります。しかし、子ども同士の中でこうした経験をたくさんすることでお互いにコミュニケーションの方法を学び、自分のことも、そして周りの人のことも大切にできる気持ちが育まれます。

自分の正義だけを主張し、貫こうとする気持ちからは争いしか生まれません。お互いを認め合い、尊重できる子どもたちは、きっと平和を作り出す大人に育っていってくれることでしょう。

(園長 関根富美子)

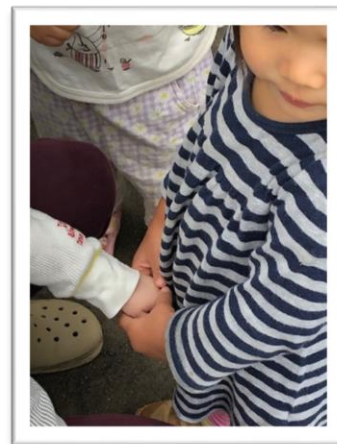
自分は愛してもらえているという感覚

子どもが怖くて不安な時に信頼出来る大人にしっかりとくっついて「もう だいじょうぶ」と安心できるようにすることをアタッチメントといいます。このアタッチメントを経験することを通して「何かあれば必ず助けてくれる人がいる」という確信をもって子どもは少しずつ一人でもいろいろなことに挑戦していけるようになります。

そして、身近な大人と視線を合わせて時間を共に過ごし、喜びを一緒に味わうことは子どもの時代にとっても大切なもので「自分は愛してもらえている」という感覚に繋がります。その感覚は子どもがその後に出会う様々なチャレンジの際に大きな自信となり、よりどころとなっていきます。

私たち大人はそれを心がけて、子どもと接したいですね。

(キリスト教保育 4月号より)



こどものお祈り

天のかみさま

保育園であそぶ私たちが いつもおまもりくださり

ありがとうございます

おともだちとあそぶ 楽しい時をくださって ありがとうございます

保育園に来る道も 保育園から帰る道も 毎日おまもりください

このお祈りをイエスさまのお名前によって おささげいたします アーメン

